

2025年度 エール幕張海浜 事業報告

事業運営の総括

2025年度は、社会福祉法人愛の園福祉会の基本理念「もっとも小さな者のひとりに仕える」のもと、児童福祉法等に則り、子どもたちが心豊かな環境で成長できるよう支援を行いました。本年度は、前年度からの課題であった職員体制の強化を図り、新規職員の採用により職員配置加算（加配加算）を取得できる体制を整えました。また、午前・午後各5名の少人数制に対し職員3～4名を配置する手厚い支援体制を確立し、利用児童100%の契約率を達成するとともに、質の高い療育と職員の職場環境改善を両立できた1年となりました。

1. 園の概要

(1)基本情報

- ①名 称 :こども発達支援事業所 エール幕張海浜
②住 所 :千葉市美浜区幕張西2-7-2 幕張海浜こども園内
電話番号:043-304-5700
FAX番号:043-273-2267
ホームページアドレス:<https://www.ainosono.or.jp/makuhari/kids/>

(2)実績報告

2025年度 利用数および利用状況一覧

年月	エール幕張海浜				
	営業日数	契約者数	延べ利用者数	稼働率	サービス報酬額
4月	20	13	181	90.5	2,585,322
5月	20	14	185	92.5	2,667,102
6月	21	14	198	94.3	2,704,708
7月	22	16	224	96.8	2,868,655
8月	21	17	190	90.5	2,591,957
9月	20	18	188	94.0	2,572,847
10月	22	18	206	100	2,737,000
11月	18	18	161	89.4	2,113,948
12月	20	19	186	97.9	2,547,212
1月	19	21	187	98.4	2,542,523
2月	18	21	171	95	2,340,759
3月	22	23	205	93.1	2,772,563

平均 利用率	94.4 %	総収入	31,044,596 円
-----------	--------	-----	--------------

(3)在籍児童の状況および週間利用率、利用回数(2026年3月時点)

○在籍児童の状況

○週利用率

学年	人数		曜日	人数
1歳児	0		月	10
2歳児	3		火	10
3歳児	6		水	10
4歳児	6		木	10
5歳児	6		金	10
計	21			

(4)職員の概要(2026年3月末)

管理者 1名

児童発達支援管理責任者 1名

保育士 2名(常勤)

公認心理士 1名(常勤)

3.療育・支援の実施状況

(1)日々の発達支援(本人支援)

児童の障がいの内容や程度に関わらず、個々の発達課題に合わせた適切な療育カリキュラムを提供しました。具体的には、療育を午前と午後の部に分け、小集団での活動やモンテッソーリ教具等を用いた机上遊びを通して、遊びを通じた身辺自立や人との関わり方を育む支援を実施しました。また、必要に応じて言語個別療育の受け入れも行い、きめ細やかなサポートを行いました。

(2)併設施設との連携(インクルーシブ保育の推進)

幕張海浜こども園内に併設されている強みを最大限に活かし、日常の保育と療育の場で児童の発達課題や日々の様子の共有を図りました。また、日頃よりこども園内に在園している課題のある児童の早期把握に努め情報交換に努めたことで、インクルーシブ保育の実現に向けて、園全体で切れ目のないスムーズな支援体制を整えました。

(3)保護者・家庭支援

子どもだけでなく保護者に寄り添う支援として、こども園と連携した保護者面談を強化しました。日々の送迎時のコミュニケーションや定期的な面談を通して、家庭での子育て環境の整備や、特性を踏まえた子どもへの関わり方についての相談援助を行い、保護者の育児不安の軽減に努めました。

4.運営体制と職場環境の改善

(1)安定した事業運営の実現

2024年度の課題であった言語聴覚士の退職に伴う加算未取得の問題に対し、2025年度は新規職員2名の採用を無事に進めることができました。職員配置が最低限整ったことで運営体制がより安定し、こども園のクラス担任との月例の情報共有や、地域の保健師・医療機関とのスムーズなネットワークがさらに強固なものとなりました。こうした園や地域との連携が信頼の輪を広げ、スムーズな利用児童の獲得と、年間を通じた安定した高い稼働率の実現をもたらしました。2024年度の課題であった言語聴覚士の退職に伴う加算未取得の問題に対し、本年度は新規職員の採用を無事に進めることができました。これにより職員配置加算に繋げることができ、外部からの入園希望者の積極的な受け入れと相まって、年間を通して契約児童100%を見込む安定した事業運営を実現しました。

(2)「職場環境改善アンケート」の実施と成果

本年度は、職員がゆとりを持って療育に専念できるよう、午前・午後各5名という少人数体制に対し、職員3～4名を配置する環境を徹底しました。年度内に実施した「職場環境改善アンケート」においても、この手厚い人員配置が職員の精神的・体力的な負担軽減に大きく寄与していることが確認されました。職員の貢献実感や満足度の向上が、結果として利用児童や保護者からの高い評価(サービスの質の向上)に繋がっていると推察されます。

5. 今後の課題と展望

本年度構築した良好な職場環境と手厚い支援体制を次年度以降も継続していくことが第一の目標です。その上で、今後の課題として「職員の専門性のさらなる向上」が挙げられます。次年度は、ゆとりある勤務環境を活かして施設内・外での研修をより充実させ、そこで得た知見を日々の療育支援に還元できる体制づくりを推進してまいります。